

令和8年 第2回ヤングミーティング

テーマ『まちの魅力と持続可能なまちづくり』について

日時 令和8年8月3日(月)19:00~20:30

場所 TOUAMACHI KAIAKN

①「まちづくり活動への参加」について

- 各務原市の印象
 - 都会と田舎のいいとこ取りができるハイブリッドな街
 - 人が多すぎず少なすぎない過ごしやすい街
 - 市民公園・学びの森など、魅力的な公園が多く、子育てしやすい街
 - 落ち着いた暮らしができる街
 - 朝は賑やかな雰囲気だが、夜はお店が閉店して落ち着いた雰囲気になるというサイクルがあり、暮らしが整っている街
- 転入者からみた各務原市に住んでみた感想
 - 地元（都会）と比べ、街の人とコミュニケーションを取る機会が多く、新しい暮らし方を見つけられた。
 - イオン、アクア・トトぎふ、学びの森など、魅力的な場所がたくさんあり、昔から住んでみたいと思っていたため、今後も様々な行事に参加していきたい。
 - ボランティア・街歩きなどを体験し、楽しい生活ができています。
 - 駐車場の料金が3時間無料であり、街をゆったり巡る時間がある。
- 各務原市の課題・より良い街にするための提案
 - 那加エリアに魅力的な店が増えてきているように、様々なジャンルの店がグラデーション的に増えていけば、感度がある人が増えて面白い街になるのではないか。
 - ボランティアに参加する若者が少ないため、ボランティアやまちづくりに参加する若者が増えれば、さらに活気のある街になるのではないか。
 - 小学生は子ども会や自治会の活動に参加しているが、中学生以上の学生は地域との連携が少ないため、中学生以上の学生が地域と連携していくための方法を見つけれないか。
 - 子どもたちが楽しめるイベントが少ないと感じたため、発達の特性の有無に関わらず全ての子どもが参加できるイベントを増やせないか。
 - 外国人の友達が孤独感を抱えているため、国籍を超えてつながりを生み出すことはできないか。
 - 単身で暮らすための条件の良い家を選ぶのに苦労した。そこで、那加エリ

アにシェアハウスやゲストハウスが作られているように、若者が気軽に宿泊できる施設が増えれば、より多くの若者が遊びに来てくれるのではないかな。そして、各務原市を気に入った人が引っ越してきてくれるのではないかな。

- 自分が取り組んでいることについての今後の展望
 - たくさんの人とゆるいつながりを持ちたい。また、市内のいたるところにゆるいつながりが生まれて、いろいろな目的で各務原市に来てくれる人が増えると嬉しい。
 - 子どもたちが困ったときに頼りになる大人の存在が必要だと感じ、子どもたちの居場所を作るための子ども食堂を開催している。今後は台風などで学校が休校になったときに、子どもたちを地域で預かれる場所があるといいなと考えている。
 - 発達の特性の有無に関わらず、全ての子どもたちが楽しめるイベントを開催している。今後は、子育て世代だけではなく、幅広い年齢層の方とつながりを持って、一緒に子育て支援をしたい。
 - お祭りの担い手が不足しており、お祭りの存続が難しくなる可能性がある。若者がなにか始めようとしたときに周りの大人に反対されないかを心配して消極的になってしまっている可能性があるため、若者限定イベントを開催し、若者だけで何かやってみる機会を作りたい。
- 担い手を増やすための提案・自分の経験
 - 活動の様子が SNS で発信されていたり、「初めてでも OK」と宣伝されていたりすると、若者が活動に参加するための初めの一步を踏み出しやすくなるのではないかな。
 - 親が頑張っていることを子どもたちは見ていて、自然と一緒に活動できるようになったため、継続が力になるのではないかな。
 - 最初は一人で活動を始めたが、小さいことでも活動が続けていたら、同じような思いを持っている人たちが集まってきてくれた。地道な活動が続けていけば繋がりが増えるのではないかな。

②「若年層に向けた自治会加入促進策」について

- 自治会のイメージ
 - 自治会長は大変そう。
 - そもそも自治会がどのような活動をしているのか知らないし分からない。
 - 近所の人に「自治会に入っていないですね」と言われて初めて自治会の存在を知ったくらい、自治会の存在感が薄い。
- 自治会の活動をやってみて感じる事
 - 仕事をやりながら、家庭を持ちながら、その中で地域のことは考えるのはとても大変である。
 - 幅広い年齢層の人の意見を聞いて、各世代がやりたいことを少しずつ取り入れたところ、夏祭りにたくさんの人が集まった。自治会員は皆それぞれ異なった意見を主張するため、それをまとめていくのが大変だったが、地域の人の考え・暮らしが分かったため、自治会長をやってよかったと感じている。
 - 夫が自治会長をしていたときは自治会の活動がとても忙しく、家庭のことを母親が1人で担わなければいけなかった。子育て世代には負担が大きい。
 - 自治会長は自治会の活動に加え、団体の充て職が多く、様々な活動を兼務しなければいけないことが大変である。
 - 仕事を終えた後に自治会の活動をするのは、精神的にも肉体的にも負担が大きい。また、神社の清掃やゴミステーションの当番があるのは知っているが、仕事の関係で参加できない。
 - ゴミステーションの当番は3年に1回程度しか回ってこないため、あまり負担ではない。
 - ふれコミ隊の活動をしていると、自分が住んでいる地域以外の人とも仲良くなれることが嬉しい。
- 自治会の今後について・どのような自治会に参加したいか
 - 子どもがやりたいことと大人がやりたいことを完全に切り離すのではなく少しずつ融合していけば、いろんな世代を交えながら楽しめる。
 - お祭りやハロウィンなど、子どもが参加できるイベントが定着している地域は自治会加入率が高いため、子どもが楽しめるイベントを積極的に開催するべきである。
 - 自治会を運営している人と自治会未加入者の考えやライフスタイルが異なるため、わざわざ自分とずれているところに入っていけないし、それがハードルになっている。
 - ライフスタイルが合う人ごとに自治会を作るのが良い。

- 自治会の活動には参加できなくても、地域のためにお金を払うことはできる。
- 自治会の活動内容よりも、各務原市の中でお気に入りの場所を見つけて、街への愛を持つことが大事である。
- 声がかかれば活動に参加するが、自治会には入りにくさのハードルがあり、入り方も分からない。近所の人とのつながりがいない人は声がかかることもない。
- 自治会に入るメリットが分かりやすく示されていると入りやすい。